

1. 授業担当教員

教授 牧野 洋 講師 小野寺 美子
連絡先 内線 3220 E-mail yonodera@asahikawa-med.ac.jp

2. 授業科目の授業内容および講義日時

【特論】（選択2単位）

（目的・概要） 悪性腫瘍の診療において緩和ケアは重要な位置を占めているが、専門医数、専門者数はその需要に対して不足している。緩和ケアについての高度な専門知識を持った医療者を育成し、北海道地域におけるがん患者への総合的な支援に貢献する。

○参加可能プログラム

大学院講義 随時

関連領域論文の抄読会への参加・発表

研究成果発表会への参加・発表

【特論演習】（選択6単位）

（目的・概要） 緩和ケアの実践のため実際の臨床現場において、全人的苦痛の緩和のために困難な事例を収集し、具体的な解決策を見出すために症例を検討していく。

○参加プログラム

緩和ケアチームカンファレンスへの参加：毎週水曜日15:30

退院前合同カンファレンスへの参加：適宜

【特論実験・実習】（選択4単位×3）

（目的・概要） 実際の症例について評価、対応を行い、専門的緩和ケアの実践について学ぶ

○参加可能プログラム

緩和ケアチームカンファレンスへの参加：毎週水曜日15:30

退院前合同カンファレンスへの参加：適宜

全人的苦痛の緩和のための症状評価、対応：適宜

緩和的放射線治療施行時の苦痛緩和：適宜

【論文作成演習】（選択4単位）

（目的・概要） 研究遂行に必要な基本技能、英語論文の読解能力、研究成果の発表能力、論文作成能力などの修得を目的とし、履修者が実際に取り組んでいる研究の結果に応じて論文作成演習を行う。

○参加プログラム

演習：文献や論文の内容について、随時、指導教員の指導を受けながら論文を作成する。

症例発表会：適宜

3. 授業方法

少人数制とし、できるだけ討論の場を設けながら進める。

4. 成績評価基準

特論、特論演習：年度ごとに試験を実施し、別紙の成績評価基準に従って単位を認定する。

論文作成演習：実験結果を論文としてまとめ、学位論文として提出できたかどうかを、別紙の成績評価基準に従って単位を認定する。

5. 講義室

緩和ケア診療部医局を中心とするが適宜、臨床現場である病棟カンファレンスルームなどを使用する場合もある

6. その他